



中国原子力ハンドブック
2015
世界市場制覇に動き出した中国

日本や中国等に拠点を置くテピアグループ(劉炳義総裁)のシンクタンク、テピア総合研究所(港区虎ノ門)はこのほど中国原子力ハンドブック二〇一五―世界市場制覇に動き出した中国(『写真』)を刊行した。

福島第一原発事故後、中国政府は原子力政策の見直しを行い、内陸部での原子力発電所の着工を二〇一六年以降に延期することも、新規に着工する原発では「第三世代炉」の採用を決めた。また、同事故は、中国が抱えている問題点を見つめ直すきっかけとなった。それにも、同事故からわずか四年たらずで、中国の原子力界は世界のセンターステージに立ったようだ。中国政府は二〇年の運転設備容量を五千八百万kW、同時期の建設規模を三千万kWにするの目標を掲げているが、中国のエネルギー問題の権威、周大地・元国家発展改革委員会能源研究所所長は、五〇年には原子力設備を四万

五億kWに拡大しエネルギー供給の柱にする必要があるとしている。そうした巨大な開発計画の存在が中国の自信につながっている。習近平国家主席と李克強首相は一三年から一四年にかけて原子力(発電)外交を繰り広げた。中国がかかっている国は二十か国を軽く超える。新規に原子力発電を導入しようとわっている国は二十か国を軽く超える。新規に原子力発電を導入しようとわっている国は二十か国を軽く超える。新規に原子力発電を導入しようとわっている国は二十か国を軽く超える。

総研
テピア
中国ハンドブック刊行

「世界市場制覇に動き出した中国」
「中国原子力ハンドブック二〇一五―世界市場制覇に動き出した中国」一月十六日刊行、A4版七百五十ページ、頒価二十八万円(税・送料込)。問い合わせ：日本テピア・テピア総合研究所(電話03-6721-5505、FAX03-6721-5506)